

## 平成25年度第1回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：平成25年10月30日（水）14：00～16：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：大原主査、松浦委員、中村委員、高田委員  
（事務局）井端事務局長、森下主幹、坂下職員、野本

### IV. 議事内容

#### 1. 平成25年度の活動計画と大学改革に向けた取り組みについて

- 平成25年度は、2回開催し、能動的学修の実現に向けてICTの活用を含めた効果的な学修の取り組み方策、教員の教育指導の開発、今後一層研究を進めるための検討を行う。サイバーFD研究員の意見を踏まえて見直しを行い、教育改善モデルの一層の充実・改善及び実現への取り組みを研究することとしている。

#### 2. 教育改善モデルへの意見と検討について

7月から9月にかけて実施した教育改善モデルのアンケートには30名の教員から意見が寄せられ、その意見に対して以下の検討が行われた。

- 一般レベルと専門レベルがあるが、倫理やセキュリティなどへの意見があり、リテラシー教育と一般レベルの関連がわかりにくかったか、5年先の授業をイメージし、目標値として広い視点で豊かな社会を実現するための新しい価値を創出するために作成した。教育の質的向上へICTをどのように使うか、学びのゴールラインを考えた学士力とした。
- コミュニケーションや会話力への意見があったが、情報専門に関わらず基本的な事項であるとする。
- 「価値」と「システム」の言葉を利用しているが、頻度と使い分けについて意見があった。価値は、それぞれの要求によっても違う、社会的価値、メリットデメリットを説明できるが評価、社会的価値の有無や影響度、重要度などについて説明できる。システムについては、見直すことにした。
- 一般、専門レベルの表記は基礎、応用レベルとしてはどうかの意見があった。
- 情報デザインは情報通信系の範囲ではなく、コンテンツ・サービス系ではないかの意見があったが、情報デザインとは芸術的観点と違い、仕組みができていない設計前の段階での検討のことをさしている。
- 「豊かな社会」は安全・安心と関連してイメージすべき意見があったが、そのまま利用することにした。
- 到達目標1到達度③「ステークホルダー」に指摘があり、「人々の役割」に変更することにした。
- 社会生活を豊にするための目標のひとつで高齢者の心理・生理的特長の理解の意見から、コンテンツ・サービス系の到達目標3到達度専門レベル②で「社会的弱者など」に表記することにした。
- eラーニングで十分な理解が図れるかの意見があったが、一方通行のeラーニングはイメージしていない。
- 組込みソフトと公共・企業系と到達目標を分けてはどうかの意見があったが、社会に有益な価値をもたらすことを目指して細分化はしないことにした。
- 試験重視でITパスポート試験もあるが、幅広く考えており、試験は各大学で対策を考えていただくことにした。実社会での危機感やツール作成には数学なども必要であり、最終目標を提示してそれに向けての提案としている。
- より具体的な手法や評価を希望している意見もあるが今後の事例などに期待したい。
- PBLの進め方についてネットでは表面的な授業になるとの意見があるが、ICTは利用するがここでは対面での学びを含んでいる。

#### 3. 大学改革に向けた取り組みについて

- 教育再生実行会議の三次提案から、教育方法の質的転換、イノベーション創出で理系人材の育成、学修時間の増加・可視化、組織的授業マネジメントの改善、社会人の学び直しなどが求められている。
- 教育振興基本計画では、自立性をともなった学修、教学システムの整備、評価の改善などと補助金の配分を含めて主体的な学び、教育の質的展開への取り組みの改革が求められている。
- MOOCは現在800万人が学んでいるが、日本でもJMOOCが来年から反転授業を含めて開始される。
- IPAの産学連携について、講座構築ガイドの評価基準が紹介された。

### V. 今後のスケジュール

- 意見を再度検討し、変更案を次回の委員会で検討することにした。
- 次回の委員会は1月16日（木）14時に開催する予定とした。